

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第100回

会社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第100回目は、振動計専門メーカーとして様々な産業分野で活躍する昭和測器株式会社(千代田区)をご紹介します。同社は取引相談窓口の利用をきっかけに、地域中小企業応援ファンドや知的財産相談窓口、ニューマーケット開拓支援事業なども効果的に活用し、積極的な製品開発を行っています。

「安全と快適」のために「一灯照隅」の精神で振動計測に取り組む

昭和測器株式会社

正確な振動計測で
機器本来の性能を引き出す

昭和測器株式会社(以下同社)は振動計の専門メーカーとして、昭和45年の設立以来、振動計測装置や振動監視装置の製造販売を通じ成長を重ねてきた。

「一灯照隅(注1)」を企業理念に掲げる同社は、専門メーカーならではの経験を活かした豊富な製品ラインナップを持ち、振動計測による事故の防止やメンテナンスの効率化を通じて社会の「安全と快適」に貢献すべく製品を提供している。

機械装置が本来の性能を発揮しつつ安全に使用されるためには、その作動に際して発生する様々な振動を正確に捉える必要がある。そこで、同社の振動計が活躍する。高精度な振動計測は装置の安定した動作につながり、それ自身の耐久性向上や使用者の安全に直結するのである。

そんな同社の技術は、自動車や航空機といった輸送機関をはじめ、プラント関係の回転機械や医療機器、建築構造物から家電まで様々な分野に渡って活かされている。同社一番のロングセラーが「携帯型振動計/ポータブル振動計」で、小型且つシンプルな構造が振動計測の簡易化を実現した。現在はレコーダー機能を付与した同シリーズ製品も販売されている。一方、100万分の1ミリメートルの振動をも計測できるという同社技術は、特殊な産業にも利用される。最近では海底の微振動を測定するためのセンサや人工衛星用加振試験



ロングセラーのポータブル振動計

向けアンプなどの開発依頼があり、期待に応えるために尽力している最中だという。

堅実な経営を継続しつつ、
公的機関を有効利用

同社の強みは何と言ってもその幅広いニーズへの対応力であり、想定される市場の中での確にターゲットを捉えることに長けている。さらにその企業のキーマンが抱く課題を正確に把握することで、よりピンポイントなニーズを抽出し「顧客が本当に必要とする製品」の開発に注力できる。同社はこうした強みを生かしてバラエティに富む製品開発を続け、着実に顧客からの評価を得てきた。

こうした評価は、東京商工会議所主催の「勇気ある経営大賞」における優秀賞、東京都信用金庫協会の設置する優良企業表彰制度での「最優秀賞」の受賞につながる。そのような数々の輝かしい実績を持つ同社ではあったが、ある時、国際基準に対応した振動計の製造を依頼されるという新たな課題に直面する。このニーズに応えるためにはISO国際規格の習得が必要となる。しかし同社にはそういった経験が不足していた。また、製品の開発にも大変な費用を必要とする。

そこで関心を寄せたのが、公社の「地域中小企業応援ファンド助成事業(注2)」である。それまでは公社を下請取引の相談窓口として利用するのみであったが、ISO取得という新たな壁を越え、より上質な顧客満足を提供するため助成申請を行った。

結果、同社の技術は都市課題の解決に貢献するものとして評価され、関連する製品開発費の一部について助成金の交付が決定した。同時並行で、特許の調査や人材育成に関しても助言を得た。そうして1年がかりで開発に成功したのが「エレベータ用振動測定装置」であり、後日、同製品がニューマーケット開拓支援事業(注3)の対象製品としても採択された。当初、エレベータ業界という特殊な市場の中でなかなか成果に結びつかなかった。そこで



エレベータ用振動測定装置の使用風景

ビジネスナビゲータはそれぞれのネットワークを駆使し、業界のキーマンに対して具体的な課題解決に向けた提案を行うなど、より多角的なアプローチを試みた。同社は様々なチャネルを持つビジネスナビゲータらの後押しをうまく活用しつつ、

自身の得意とする地道な営業活動を継続することで成約に至った。

その後、より汎用性の高い「微小振動計測用3方向計測システム」も支援製品に認定され、同様の支援を受けている。同製品に関しても、製品改良や営業体制の助言を得ながら更なる販路拡大を目指す。

同社はその他公社支援メニューも効果的に利用している。知的財産総合センターにおける特許調査費用助成や公社が主催する展示商談会への出展も経験し、堅実な経営をより強固なものとするため公的機関の支援にも常に意識を向けている。

利他の心から始まる「安全と快適」の追求

「社会の『安全と快適』に貢献したい」という強い思いが、同社の支柱として常に存在する。その原点は過去の反省から学び得た「利他の心」である、と語るのは、創業者であり代表取締役の鵜飼俊吾氏だ。

若い頃、鵜飼社長は警報装置の製造・販売を主に行う事業を立ち上げた経験がある。中日本で開業し、火災警報装置や盗難警報装置を主力製品として防犯・防災に寄与する製品を販売した。しかしその事業は数年で失敗。利益の追求にばかり注力したことが原因であったと社長は振り返る。増益だけを意識して社内環境や従業員の生活をないがしろにしている、いつかほころびが生まれる。社長は利己的な経営を反省した。その後、新たに就職した会社で「利他の心・感謝・喜神」という言葉に出会い、社長は大変に心を打たれた。そして昭和45年、昭和測器株式会社を設立。利益の分配や社内環境の整備を徹底し、社員が安心して働くことの出来る企業を目指した。現在の無借金経営という盤石な体制も、その精神を貫き考え抜いた結果だ。また、社員による株式保有を奨励することで社内のベクトル共通化も図っているという。

健全な経営を徹底することは無駄の排除につながり、その余剰を製品開発やサービスの充実に反映できる。そうしたプラスαにより顧客はよろこびを感じ、同社の信頼へとつながるのである。こうした堅実・健全な経営を継続するため常に人の顔が見え心を感じられる環境を大切にしたい、と社長は話す。そしてそれには「学校の教室ほどの人員構成が丁度良い」という規模感に対する持論も

伺うことが出来た。曰く、安定して事業を継続しつつその方向性・経営理念を共有するには、30～35名ほどの規模が最も理想だという。

同社は現在、従業員28名の振動計専門メーカーとして国内産業の「一灯」を担う。社長は、こうして一隅を照らす企業が増えることで日本の経済全体が明るくなると語った。先に紹介した「一灯照隅」という言葉であるが、正確には「万灯照国」と続く。ひとつの主体がその役割を果たせば小さな隅が照らされ、数多の主体が集まれば社会全体をも照らすことが出来る、という意である。社長はこの教えを受け、新たに一灯を担う人材の育成にも励んでいる。月に一度、起業意識を持つ若者を集めてディスカッション等を行い、意見交換を通じて理念の共有を図る。いわば万灯の種蒔きであり、社会を照らす灯りの火付け役として、小さな努力を積み重ねている。「一灯照隅」の精神で社会の「安全と快適」に貢献したい。まさに社長の掲げる「利他の心」が為せる行動である。

創業以来「製品品質に厳しいものづくり」を強く意識し続けてきた同社。

狭い業界で専門メーカーとして振動計の開発・製造を継続できたのは、堅実・健全な経営を土台とする、一隅を照らす努力の成果であると言える。

(事業戦略支援室 長谷川裕)



代表取締役 鵜飼俊吾氏

(注1)一灯照隅…

「一灯照隅 万灯照国」という言葉に由来する。ひとつの火はひとつの隅を照らすに留まるが、小さな火が集まることでやがて広い範囲を照らすことになる、という教え。それぞれの主体がその役割を果たすことが大事であるという意。

(注2)地域中小企業応援ファンド事業…

地域密着型イノベーション事業の創出をねらいとした助成事業。地域の魅力向上や都市課題解決に貢献するアイデア・事業プランに対し助成金を交付する。

(注3)ニューマーケット開拓支援事業…

中小企業が開発した新製品・技術を「ビジネスナビゲータ(商社・メーカー等民間OB)」が持つ豊富なネットワークや経験を活用して売込み先にアプローチすると同時に、売れる製品・技術として育てていくためのアドバイスを行うもの。ビジネスナビゲータとともに販路開拓活動を行うことで営業実践ノウハウを吸収し、自立した営業体制の構築を目指す。

企業名：昭和測器株式会社

代表者：鵜飼 俊吾

資本金：1,000万円 従業員数：28名

本社所在地：東京都千代田区神田和泉町1-5-9

TEL：03-3866-3210

FAX：03-3866-3060

URL：http://www.showasokki.co.jp/